

新出文法の口頭導入		新出文法が自然に用いられる文脈を作り出し、それを口頭で導入する活動。文法用語を用いた、文法の説明までは含まない。	
	英語の正確さ	語りの工夫	生徒を意識した言語使用
4	この活動を行う際の言語使用全般において、正確な文法・語彙・発音が用いられている。	生徒の反応に応じて、あらかじめ準備していなかった内容であっても、即興で、自然に語る事ができている。	一文の長さを短くする、一度に提示する量を限定する、同じパターンの繰り返しによりリズムを生み出す、生徒が注意を向けるようなフレーズや情報を盛り込むなどの工夫を行い、生徒が高い集中力を保って教師の口頭導入を聞き続けることができるように話している。
3	(1) 新出文法を、それが自然に用いられる場面・状況を作り出した上で、提示できている。 (2) この活動を行う際の言語使用全般において、ほぼ正確な文法・語彙・発音が用いられている。	(1) 新出文法が含まれる部分を、声量やピッチの調整により音声的に目立たせ、生徒の気づきが促されるようにして話している。 (2) ほとんどメモを見ることもなく、生徒に語りかけるスタイルで口頭導入ができている。 (3) 非言語的の伝達手段 (e.g. ジェスチャー) や視覚的資料と効果的に統合された語りになっている。 (4) 一方的に語るのではなく、生徒に繰り返させたり、生徒に質問を投げかけインターアクションをしながらこの活動を行っている。	(1) 例文や説明を提示する際に、(適切と考えられる場合は) 関連する既習の文法を同じ談話の中で用いて、それと比較・対照させる形で口頭導入を行っている。 (2) 生徒の理解度をモニターし、理解できていないと判断した場合は、発話を繰り返したり、言い直したりしている。
2	(1) 新出文法を含む例文に関しては、文法的誤りは見られない。しかし、場面・状況設定 (=その文法が自然に用いられる場面・状況かどうか) の点で少し問題の残る例文となっている。 (2) この活動を行う際の言語使用全般において、文法・語彙・発音に関して、標準英語からの逸脱は多少見られるが、コミュニケーションを阻害するような誤りは見られない。	原稿を時折参照しつつも、生徒にアイコンタクトをとりながら、準備したスピーチを生徒に対して提示できている。	例文や説明を提示する際に、生徒が持つ言語知識 (e.g. どの単語・文法が既習か) を十分に考慮に入れている。
1	新出文法の例文に関して、文法的誤りが見られる、あるいはとても自然には用いられない英文が使われている。	準備した原稿を棒読みしている、あるいは (生徒とアイコンタクトを取ることもなく) 原稿を暗唱したものを披露するような形で話している。	例文の提示や説明において、生徒が持つ言語知識をあまり考えていない。例えば、未習の単語がいくつも用いられていたり、困難度の高い (既習の) 文法が含まれていたりする。

